

=====

主催 京都大学医学研究科「医学領域」産学連携推進機構 (KUMBL)

=====

オンラインシンポジウム

『New Normal での教育の実情と課題、VR 教育を含む今後の展望について考えるワークショップ』

■日時：2020年10月28日（水）10：30～12：00

Zoom ウェビナーライブ配信・無料

（事前登録制）発表言語：日本語

昨今の Covid-19 の世界的な蔓延により、大学は基本的にリモート学修に切り替えておりますが、医学研究科の臨床実習、看護実習（家庭訪問実習を含む）や介護実習、人文社会学系学部等の教育実習など、各研究科で実施されてきた実習、演習の、現存するシステムによるフォローは行き届いているとは言い難く、教育内容の縮減を阻止することは非常に困難であり、学生、教職員からは、十分な実地研修が出来ないことへの危機感から焦りの声が挙がっております。

あたかも実際に経験するような疑似体験を得られる VR（バーチャルリアリティ）は教育教材との親和性が高く、上記のような大学実習にも導入・活用されつつありますが、現存するシステムでは事前に想定されたシナリオに沿った疑似体験を得るのみにとどまり、補助教材としては有力ですが、当該実習において学生が得るべき、『生きている対象からのレスポンスを受けて行動・思考する』経験を得ることに成功しているとは言い難いのが実情です。

そこで今般、諸研究科が抱える教育実習の現状と課題を共有し、これからのウィズコロナ時代に履修効果の高いコンテンツを学生に提供していく方法を、学外を含む研究科横断的に検討するべく、（仮）インテリジェント医療メディア教育研究拠点（IMERC）を立ち上げることいたしました。IMERC では教育現場・臨床現場の相談および問題提起に対して、VR,AR,AI を始めとする情報伝達メディアを主軸とした研究現場より技術、知識提供を行い、次世代型医療教育システムの普及を目指します。

ワークショップでは、各研究科の教育現場での課題及び VR,AR,AI を始めとする情報伝達メディア業界の最新の知見を共有することで、各研究科共通もしくは研究科特有の課題を整理し、優先的に解決すべき課題についての集中的な取り組み、各研究科の創意工夫の共有化、共同研究への発展等本分野の更なる活性化を目指したいと考えております。第 1 回目のワークショップは学内中心に開催し、学内の問題洗い出しを目的としております。

本分野に関心をお持ちの教職員の方々、学生の皆様の聴講をお待ちしております。

演者紹介：



榎木 哲夫 先生

京都大学大学院工学研究科 教授

演題：Cyber-Physical Co-Coaching：熟練技能の伝承支援システム

要旨：少子高齢化社会の最大の懸念は、これまで現場で培われ人に宿してきた熟練技能や暗黙知の持続可能性、すなわち熟練技能者からどのように獲得し、活用し、伝承し、新たな創造に繋げることができるかです。本講演では、熟練技能の作業観察からの分析法とインタビューによる見える化、技能のモデリングによるカイゼンのための活用法、教示者—学習者のインタラクション分析とサイバー空間を活用した伝承と学び等について、人工物のデザイン手法によるアプローチについて講述します。



山本 憲 先生

医学教育・国際化推進センター 講師

演題：コロナウイルス感染症と医学部学生の臨床実習をどうするか

要旨：医学部での教育において、臨床実習は非常に重要である。将来の医師を養成する為に、臨床現場で患者さんと対面して学ぶことを通して、学生は医師として必要な態度と技能を身につけてゆく。しかし、コロナウイルス感染症のため、患者さんと対面する実習が困難となった。医学部学生を大学キャンパスへ来校させることも困難となった。模擬症例データを用意し、それを用いたオンライン臨床実習を行うこととしたが、患者さんと対面しない臨床実習での学びには限界がある。その為我々は、既に教育にも用いられていた Virtual Reality (VR) 技術を応用する臨床実習補助教材の作成を計画した。既存のシミュレーション教育の技法に VR 技術を付加することにより、学生の学びを補完できる可能性が高まることを期待している。



平 和也 先生

京都大学大学院
医学研究科
助教



鳥井 美江 先生

京都大学大学院
医学研究科
助教

演題：ウィズコロナ時代における看護教育の課題 —臨床実習で求められてきたことはなにか

要旨：看護職は患者や対象となる人々に医療ケアを提供する職種であり、求められる能力は、①対人関係に基づいた個別的な支援プランの構築と②ケア技術の提供です。ベテラン看護師は複数の要素から成り立つ患者を取り巻く生活環境・人生史や会話などから適切なケアを立案し、患者の身体に直に接し医療ケア手技を提供します。学生は臨床実習では実際に患者に接してこのような技術の基礎を学び

ますが、オンライン化により学生が患者と接する機会は大きく削がれました。今回はコロナ禍において対人関係に限られる中、看護職者養成で達成すべき目標を共有し、これを補完する教育方法やツールについて考察を行いたいと思います。

【パネリスト】



山本 豪志朗 先生
京都大学医学部
附属病院
特定准教授



近藤 祥子 先生
京都大学大学院
医学研究科
講師

[プログラム]

- 10 : 30-10 : 43 開会挨拶、主旨及びアジェンダの説明
鈴木 忍 京都大学大学院医学研究科「医学領域」産学連携推進機構 教授
- 10 : 43-10 : 55 コロナウイルス感染症と医学部学生の臨床実習をどうするか
山本 憲 先生 医学教育・国際化推進センター 講師
- 10 : 55-11 : 07 ウィズコロナ時代における看護教育の課題-臨床実習で求められてきたことはなにか
平和也 先生 京都大学大学院医学研究科 助教
鳥井 美江 先生 京都大学大学院医学研究科 助教
- 11 : 07-11 : 22 Cyber-Physical Co-Coaching : 熟練技能の伝承支援システム
榎木 哲夫 先生 京都大学大学院工学研究科 教授
- 11 : 22-11 : 52 パネルディスカッション
榎木 哲夫 先生 京都大学大学院工学研究科 教授
山本 豪志朗先生 京都大学医学部附属病院 特定准教授
近藤 祥子 先生 京都大学大学院医学研究科 講師
- 11 : 52-12 : 00 閉会挨拶
鈴木 忍 京都大学大学院医学研究科「医学領域」産学連携推進機構 教授

[申し込み] 下記、URL よりお申し込み下さい。

(事前登録制 / 参加締切日 : 2020 年 10 月 27 日)

<https://forms.gle/uKV9H49MGwYcNWSM8>

❖ZOOM ウェビナー配信数に限りがあるため、先着順で受け付けます。



応募総数次第でお断りさせていただく場合があることをあらかじめご了承ください。
❖フリーアドレスからの登録はご遠慮ください。

[本オンラインシンポジウムに関するお問合せ]

「医学領域」産学連携推進機構 事務局

TEL : 075-366-7429 Email : application@kumbl.med.kyoto-u.ac.jp

※テレワークで離席している場合もあります。できましたらメールでのお問合せをお願いします。